

シンポジウム

人をつなぐ言葉

主催：日本経済新聞社、文字・活字文化推進機構

日時：2014年9月16日(火) 18:00～20:30

会場：日経ホール 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル

言葉は自分を映す鏡であり、人の心を開く鍵でもあります。ネット社会に多くの文字があふれている今は、言葉が持つ役割を改めて考える良い機会です。本や新聞から得た知識、情報を通じて、人と出会い、新たな世界を知ることの大切さ。「人をつなぐ」言葉の力を作家、企業人、落語家、研究者らに語っていただきます。

プログラム (敬称略)

主催者挨拶

平田保雄 (日本経済新聞社 取締役会長)

阿刀田 高 (文字・活字文化推進機構 副会長)

第1部 トークショー

「読むことの幸せ」

辻村深月 (作家)

インタビュアー

藤田香織 (書評家)

第2部 パネルディスカッション

「自分を伝える」

パネリスト (順不同)

西田厚聡 (東芝相談役)

立川談四楼 (落語家)

横山広美 (東京大学大学院准教授)

司会

狩野恵里 (テレビ東京アナウンサー)



プロフィール (敬称略)



辻村深月
作家

1980年山梨県出身。2004年『冷たい校舎の時は止まる』でメフィスト賞を受賞してデビュー。11年『ツナグ』で吉川英治文学新人賞、12年『鍵のない夢を見る』で直木賞受賞。他に『凍りのくじら』『島はぼくらと』『盲目的な恋と友情』など。



藤田香織
書評家

1968年三重県生まれ。音楽出版社、音楽制作プロダクション勤務のかたわらブックレビューやドラマのノベライズなどを手がける。98年にライターとして独立、書評を中心に執筆する。著書に『だらしない日記』『ホンのお楽しみ』『東海道でしょう!』(杉江松恋共著)など。



西田厚聡
東芝相談役

1943年三重県生まれ。東京大学大学院で西洋政治思想史を研究、東芝のイラン現地法人に入社した後、75年東芝入社。2005年社長、09年会長を経て14年6月から現職。異なるジャンルの本を併読することで多様な知識を吸収する読書家。リベラルアーツ(教養)を身につけ、人・組織を動かす言葉の大切さを訴える。座右の銘は「実心、実言、実行」。



©スズキマサミ

立川談四楼
落語家

1951年群馬県生まれ。70年、立川談志さんに入門。80年NIHK新人落語コンクールで優秀賞。83年真打昇進。90年『シャレのち曇り』で作家デビュー。自称「落語もできる小説家」。他に『談志が死んだ』『一流の人はなぜ落語を聞くのか』など。



横山広美
東京大学大学院
理学系研究科准教授

日本学術会議若手アカデミー委員会委員。専門は現代科学論・科学コミュニケーション分野。2004年東京理科大学大学院にて博士(理学)。在学中から科学を伝える活動を志し、執筆などの活動を行う。その後、科学コミュニケーションを専門にし東京工業大学、総合研究大学院大学を経て07年から現職。07年科学ジャーナリスト賞受賞、12年科学コミュニケーション研究会初代代表。科学コミュニケーションの国際誌、Journal of Science communication(JCOM)のEditorial advisory boardメンバー。



©テレビ東京

狩野恵里
テレビ東京アナウンサー

2009年、テレビ東京入社。小学6年から高校2年まで米国で生活し、趣味は「言語を覚えること」。ワールドビジネスサテライト「トレンドたまご」コーナーなどを経て、「モヤモヤさまぁ〜ず2」「池上彰の経済教室」などを担当。愛読書は『細雪』『飛ぶ教室』。好きな言葉は「人によって言葉は作られ、言葉によって人は作られる」。

